

編集部 = 竹中光子、中務佐代子、上溝敏子、飯田憲三 knziid@gmail.com 090-6665-3750

## トピックス 自然カレッジでは4月より通常通り活動展開の予定です

今号は4頁

○部会活動は3月より活動開始しています。14期・15期の講座は4月より開講予定です。

○これに伴いMONTHLY LETTERは本号を最終号として終刊します。

読者の皆様、ご愛読ありがとうございました！ 執筆者の皆様、ありがとうございました。



## 十人十色ひろば 今回は 14期スタッフの河合敏隆さん(12期生) アフリカ旅行の体験談です



日常生活が大きく変わってもう1年、体重計を見てBMI・体脂肪率・筋肉量・基礎代謝などの数値に一喜一憂しながら 以前の楽しい生活を懐かしく思い出す毎日です。巣ごもり生活は旅行好きの私には辛い一年でした。

コロナ前に行った旅行は**アフリカ**。キリン、ゾウ、シマウマ、カバなどお馴染みの動物や目の前をクロサイの家族が横切るなど本物のサファリを満喫しました。今度は長年の夢である**ガラパゴス**に行って「イグアナやゾウガメに会うぞ！」と思っていたところでコロナ禍です。海外旅行は暫くお預けですが、人類史上歴史に残る出来事を経験しているのだとポジティブに捉え、他のスタッフと共に4月からの講座再開に向け

準備に取り組んでいます。

出口はもう少しです、楽しい日々が来ることを願ってみんなで乗り越えましょう。



クロサイの家族



ザンベジ川のカバ

## 南大阪昆虫記 昆虫部会のリレーレポート 今回は「部会世話役」の11期生 出口昇さんです

ランニングクラブの仲間から「自然カレッジ楽しいで！反省会もおもしろいで！」と教えられて入会、今日に至っています。「里山が好き、緑が好き」だけの私ですが、講座修了後に先輩から「今度はみんなのお世話もせなあかんで！」と半ば脅され、訳もわからないまま昆虫部会の世話役になって2年目です。

元々は植木屋で、駆け出しの頃「樫の木に縄がぶら下がっているな」と掴もうとすると急に動き出し、蛇だと気づき悲鳴を上げました。親方からは「職人がそない慌ててどないする！」と叱られた思い出があります。

その私もちょっとは昆虫に慣れてきて、すると何だか親しみが湧くようになってきました。昆虫の名前探しや詳しい話は同期の女性方にお任せですが「**楽しい、面白い、ストレス発散**」の良い部会だと思います。この一年の活動はコロナ禍でさっぱりでしたが、新年度は活発に活動できるよう願っています。(11期 出口昇)

2月にしては暖かい日差しの中、昆虫部会の下見を世話役3人で行った帰り道、ハート型の切り株を見つけ、中を少しほじりました。小さな虫が慌てて奥に入っていく、**ダンゴムシ**だけがじっとしていました。



ハート型の切り株



中にはダンゴムシ



テングチョウ

啓蟄まであと少し。また布団をかけおきました。

**テングチョウ**は成虫のまま越冬。暖かい日差しを浴びてひらひらと飛んでいます。(11期 佃慶子)

花の寺・観心寺では今の時季白梅に紅梅、しだれ梅や樹齢250年ともいわれる老梅等々、約300本のウメの花が甘い香りを漂わせ、まさに見ごろとなっているのではなかろうか。ウメ（特に白梅）の甘い香りの正体はジャスミンやクチナシの花と同じ成分（酢酸ベンジル）で気分を高揚させたり、多幸感をもたらす効果があるようだ。

ところで観心寺境内には多くのヒノキが植えられている。檜皮（ひわだ）は古代から社寺建築に欠かせない代表的屋根葺材でその安定的確保を図るため境内林は文化庁より『ふるさと文化財の森』に設定され、また市の指定文化財（選定保存地域）でもある。原皮師（もとかわし）によってヒノキの立木から採取される檜皮、剥がれた木肌は赤く痛々しくも感じるが、10年もすると回復し、また採取可能となる。初回より2度目採取される檜皮の方が品質がいいという。檜も一皮むけて洗練されていくようだ。採取された檜皮は葺師により長方形に整形され、何枚も積み重ね優美な曲線の屋根に仕上げられる。



梅園



しだれ梅

木立のなか、檜皮葺の開山堂



檜皮採取の様子

その貴重な檜皮は、観心寺だけにとどまらず、広く文化財の修理のために役立てられている。

四季折々の花が咲き誇り、いつ訪ねても花に出会える観心寺。広い境内では50種を超える木々が入山者を出迎えてくれる。千三百年の歴史ある古刹を訪ね、花や自然に触れるとき、コロナ禍に疲れた心もきっと癒されることだろう。（TM）

## 野鳥このごろ

今回は 南大阪の猛禽類

MKさんのレポートです

ハヤブサ



チョウゲンボウ



泉大津の高層ビルで毎年ハヤブサが子育てしていることをご存知ですか。3月上旬、丁度今頃産卵し、4月中旬に孵化、5月下旬に巣立ち、その後2～3カ月親から給餌をうけ、8月には独立します（地元サポートクラブが定点カメラ観察映像を配信）。又、岸和田の浪切ホール上空では3月に入るとチョウゲンボウのペアリングが始まり、4月中旬産卵、5月中旬に孵化、6月中旬に巣立ちます。ハヤブサもチョウゲンボウも同じハヤブサ科で、巣は作らず、断崖などの自然をそのまま利用して子育てしますが、2000年頃から都市部に進出、高層ビルや橋梁などの人工物に営巣し始めて、今では身近な猛禽類へと変わってきたようです。

地で確認されています。

これらタカ類は、3月に入ると決まったペアでディスプレイフライトを繰り返しながら、巣作りや産卵の準備に入り、産卵を4月～5月中旬頃に、2～2.5ヶ月の抱卵巣内育雛後に巣立ちますが、更に1～2ヶ月程の巣外育雛を経てようやく独立します。猛禽類が冬期平野部に集まるのは、餌となる小鳥やカモ類がこの地に集まることに合わせての行動なのですが、繁殖までとなると南大阪では最近、オオタカを除いて極端に少なくなっています。タカ類の存在は森林自然環境の指標でもありますので、何とか回復してほしいものと願っています。



ハイタカ



チュウヒ

我が家のニオイスミレ（西洋スマレ）は庭一面に一足早く春を告げていますが、春の野花の代表である堇は、これから全国津々浦々、市街地、里山から亜高山まで次々と可憐な花を咲かせていきます。スマレ属は場所や環境の影響でしょうかとにかく種類が多く、基本種が55種（日本すみれ研究会）に品種、変種や交雑種を加えるとその4倍以上になります。

因みに「山溪ハンディ図鑑、日本のスマレ」には165種を掲載。しかし南大阪と金剛和泉山系だけに限ればかなり少なくなり、基本種が18種、品種交雑種を加えても生育しているのは25種程度です。

スマレの仲間は地上茎が伸びて葉が互生する**有茎種**グループと地上茎が発達せず葉や花柄が根元から出る**無茎種**グループの二つに分かれますが、それが最初の同定ポイントとなり、次に花色、大きさや葉形、花柱、托葉等の違いで種名を探していきます。



市街地や山地でも圧倒的に多いのが**タチツボスマレ**と**ニオイスミレ**ですが、その次は**ナガバノタチツボスマレ**でしょうか。この3種は有茎種です。また無茎種では**スマレ**や**シハイスミレ**も何処にでも咲き場所を選びません。生育する場所を人里に限れば、**ノジスマレ**、**ヒメスマレ**、**コスマレ**、**アリアケスマレ**の無茎種が加わります。

金剛和泉山系の山地では有茎種の**オオタチツボスマレ**や**ニオイタチツボスマレ**、**アオイスミレ**と無茎種の**アカネスミレ**、**エイザンスミレ**、**ナガバノスマレサイシン**、**ホコバスマレ**、**ヒゴスマレ**、**ヒナスミレ**、**カツラギスマレ**が見られます。3月の初旬になると、早咲きの**アオイスミレ**が先ず咲き始め、最も開花が遅いのが**ニオイスミレ**です。さてこの春は幾種類のスマレを見つけることができるでしょうか。

ワンダーワールド

「いのちの営み探検部会」の活動/選

今回は サクラ

開花予想も！ MTさんよ

今年の桜の開花は早くなりそうだ！

日本の桜は、野生種・自然交雑種・人為的な栽培種をあわせると**300種以上**とか。関西圏の野山や公園で見られる野生種(自生種)は、**ヤマザクラ・カスミザクラ・オオシマザクラ・エドヒガン**。ソメイヨシノは、オオシマザクラとエドヒガンの交配種(栽培種)、DNA分析によるとエドヒガンが母親らしい。

▼前年夏に作られた桜の花芽は一度休眠し、冬の低温で目覚める休眠打破という現象が、この冬は強い寒気が度々日本に入り込んだ為に順調に進み、しかも3月は平年よりも気温が高いようなので、その後の花芽の成長も早まる見通し。▼1つの花芽から複数の柄が伸びだし、その先に花が咲く。普通は3~4個の場合が多いが、元気ある木なら6個以上咲く。今日(3月7日)の越冬芽を見てみると**花芽**(かが、はなめ)と**葉芽**(ようが、はめとは言わない)は、**芽鱗**(がりん)に覆われてはいるが、中にはツボミや葉を包み込み順調に育っている。この芽鱗や表面に生えている毛は寒さ対策や乾燥防止の役割。▼ソメイヨシノやエドヒガンはツボミを包んだ芽の方が低い温度で成長するので、葉より先に花が開く。一方、ヤマザクラ・カスミザクラ・オオシマザクラは葉を包み込んだ芽の方が低い或いは同じ温度で成長するので、葉が先に或いは同時に開くという。(M.T)





里山に関わって3度目の春を迎えようとしています。

左の写真はミカン山の上から見た耕作地です。山の斜面にはミカンの木があり、平坦部には中央に作業小屋があり、左右に畑が広がっています。

耕作が出来なくなった持主のご好意で借り受け、素人農業を試みてきました。

そして、里山の維持に興味を持たれた多くの友人の助けを得て、きれいなミカン山、畑が蘇りました。また、崩れ始めた道路の補修、山に登るための階段作りなど、相当な重労働を提供いただきました。

里山を里山らしく保つには、多くの人材が必要なることを体験してきました。

4月からシニア自然カレッジの講座・部会が再開できることを期待して、里山だよりを終えます。



道路の補修  
土嚢約400個を  
積み上げました



階段作り  
ミカン山の斜面を登り  
易くします



ホトケノザ



ヒメオドリコソウ



オオイヌノフグリ

コロナ済んだら行きたいな！

「けん」の旅日記 ⑩

4月 仙北市

カタクリの花



小首傾げた小紫・・・カタクリの花は何と小粋で愛らしいのでしょうか。山道でたまたま小さな群落に出会うと「おっカタクリだ！」と声弾みます。そのカタクリが絨毯のように密生して咲いている、との話を聞いて、ワクワクしながら仙北市を訪ねました。

秋田県仙北市は人口2万5千ほどの市で「その名前は初耳」と仰る方も多いかもかもしれませんが、市域には角館、田沢湖、秋田駒ヶ岳があり八幡平に接している、加えて乳頭温泉、玉川温泉などの名湯がひしめくとすると、日本屈指の素晴らしい旅先だと気づかれるでしょう。

仙北市西木地区は超特大の西明寺クリの産地ですが、4月下旬、クリ林全体が見渡す限り密生したカタクリの花で埋まっていました。クリ農家の方々が労を厭わず膨大な堆肥を注がれ続けてきたのがカタクリにも「効いている」由で、まさしく見事なカタクリ絨毯です。時を忘れて歩き巡り、心行くまでカタクリを堪能します。

今回は乳頭温泉に連泊しての花旅。乳頭には7軒の宿があり、泉質も湯色も湯屋の雰囲気もそれぞれまるで違います。宿では複数の泉源を有し、同じ宿の中でも泉源ごとに湯は全く違います。雪景色のなか湯浴みを存分に楽しみフキノトウ等季節の山菜を頂きます。



クリ林を埋め尽くすカタクリの花



西明寺クリ



刺菴湿原

翌日は刺菴湿原に。雪解け水が流れる広い湿原には、一面の水芭蕉。湿原のミズバショウは小振りでもとても可愛い。あわせてザゼンソウが多いのが特徴でしょうか。清々しい眺めです。

3日目は角館の「しだれ桜」を欲張って訪ねましたが、たまたまこの年は開花が遅く残念ながら蕾のみの空振りでした。

をさなくてわがふるさとの山に見し 片栗咲けりみちのくの山に

(三ヶ島霞子)